

令和5年 第8回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和5年8月18日（金） 午後1時00分

2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監

5 開 会 午後1時00分

6 令和5年第7回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

丹羽委員、小山委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告 なし

(2) 専決事務報告 なし

8 議 事

議案第30号 大河原町部活動地域移行推進協議会設置要綱の制定について

生涯学習課長より説明。

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

9 その他

(1) 教育長報告（校長会資料による報告）

1 全学級道徳授業の日

○道徳の授業に保護者等が参加することの意義

全学級道徳の日、5年目。学習指導要領では、「保護者が授業参観時に一緒に授業に参加し発言をしながら生徒と意見交換をしたり、生き方について考えたりすることは、より一層の道徳教育の理解につながる。」と記載。

保護者を巻き込んでの、多様な価値観に触れることが大事。

2 谷川俊太郎

(1) よみうり寸評

(2) 池上彰インタビュー「詩人 谷川俊太郎」

言葉と言葉の組み合わせが、あるときポエジーという、普通の散文とは少し違う言葉のつながりを生むことがある。分析より感性を大事に。

3 生成A I

(1) 「子どもと生成A I」(NHK)

(2) 生成A Iの教育利用の方向性(文科省)

(3) 教育にA I高リスク(読売新聞)

文科省から生成A Iの教育利用についての通知。適切でない例として、①生成A Iのメリット・デメリットを学習せずに自由に使うこと、②各種コンクールの作品やレポート・小論文をA Iに作成させること、③子供の感性や独創性、感想を求める場面での使用、④テーマに基づき調べる場面で使わせることなどである。

A Iの活用にはリスクが伴い注意が必要。

4 勉強する(学ぶ)ことの意味

(1) 学びの成果を挙げる心掛け(尾崎春樹)

(2) 『学校はなぜ退屈で、なぜ大切なのか』(広田照幸)

勉強嫌いの子や勉強の成果が挙がらない子へ、尾崎氏からのアドバイス。勉強は自分の可能性を広げる、自分の選択肢が広がる、辛抱強く努力すると成果が出るなど、小学校高学年の児童や中学生に聞かせたい内容である。

5 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

小学校の平均正答率の上昇は驚異的。全国トップクラスである。やはり、「対話的な学び」を取り入れた授業実践を積み上げたことによる効果が表れたものである。中学校は、国語のみ全国レベルだが、数学・英語は宮城県内トップグループであった。

今回の結果から言えることは、大河原町における「対話的な学び」を実現する授業改善の取組は、間違いがなかったと言える。

各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進めていただきたい。

6 「学力向上につながる授業の実現」(大河原町教育委員会)

昨年度までの内容を一部修正。「主体的・対話的で深い学び」のある授業関係の記述も大幅に変更した。全教職員へ配って読んでいただきたい。

7 「対話的な学び」の推進

(1) 秋田県大館市立有浦小学校5年授業「小数のわり算」

(2) 聴き合えるペア・グループはどう育てればいいのか？

(3) 聴き合いを生み出す机の並べ方

「対話的な学び」を実現するための机の並べ方については、全員一律の前向きの並べ方ではなく、机をコの字にする並べ方が望ましいという。子どもが議論しやすい、話しやすい環境を作ってあげることが大事。

8 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の在り方（田中博之）

学習評価について、ルーブリック評価における評価の効果が書かれている。10月に田中先生のお話を直接お聞きし、学んでいく。

9 教職員に関すること

(1) 職員表彰の候補

(2) 教育センター長期研修員の推薦

10 その他

各校の授業、研修会、事業の様子について資料により説明。

舟山委員	全国学力調査の結果。大変嬉しく思う。今後ともぜひ、さらに中学生も良くなると良い。
	評価の事。評価の仕方を先生方が悩んでいた。どのように個人の評価をするのか。今回、資料にはきちんと詳しく記入してあり、大変参考になる。
一盃森委員	指導と評価の一体化を徹底して、これを軸にして授業改善を進める。続けていくことで、形になって見えてくる。ある所から急激に学力が伸びてくることについて、まったくその通りである。経験的にもそうである。ぜひ先生方にも体験してほしい。
	秋田の授業。参観したが、特別のことをやっているわけではない。大河原小でやっているのと変わらない。しかし、秋田では今まで高い学力でやってきたという先生方の自信がある。大河原もこの取り組みを続ければ、先生方が自信を持って子どもの前に立てる日が必ずくると思う。
	田中先生の話。子どもの活動の様子を、先生方がイメージできるのかどうか非常に大きい。例えば、子どもが自己調整学習できるよう、日々の指導を重ねていく。ぜひ、各学校の先生方が具体的にどういう子どもを育てていくのか考える。

丹羽委員	<p>広田照幸氏の話。全国の学校のすべての授業が驚きと感動にあふれることは、とても期待できないという。だから、この学校という通路は、窮屈なほど狭く、退屈なほど殺風景な、長い廊下のような場所だと考えたら、決して居心地がよい場所ではないけれど、でも、その廊下を歩いていけば、廊下の先には扉があって、その先は、身近な世界を越えた、さまざまな生き方の可能性に満ちた、より広い社会につながっている。と言っている。</p> <p>辛抱強く努力する、忍耐が必要。先生方に頑張ってもらって。子どもが勉強を楽しく、興味を持つ工夫が先生方に求められる。</p>
小山委員	<p>全校道徳の授業の話。保護者参加型がとても良いと思う。一日の半分以上は家にいるので、先生方の指導だけでなく、家庭からの声掛けが必要。親の意識が変わらないといけない。例えば、困っている子に関わらないとか言わず、困っている人がいたら助ける・声をかけるなど、親の意識を変えていくと良いと思う。</p> <p>A Iの話。生み出す力、考える力が無くならないように活用するのが大事。</p> <p>広田氏の話。いじめられている子の話で、学校時代は一時的なものと言っている。悩んでいる子どもや保護者に言ってあげたい。どんな状況でも、前向きに切り替えられるような気持ちになってほしい。</p> <p>全国学力調査の話。国語、数学、英語など基礎を覚える科目は、結果が出るまで時間が掛かるというのを聞いた。</p>
丹羽委員	<p>資料の中で、教育委員会においては、指導助言を通じて、学校の取り組みを適切に支援することが極めて重要とある。学校の先生方が教育しやすいように、助けてあげるのが教育委員会の役割である。</p>
一盃森委員	<p>今年度、管理職の定年が延びる。文科省にて、校長の補佐役に定年者を充てる話があった。分かれば教えていただきたい。</p>
鈴木教育長	<p>とくに宮城県教委で話は出ていない状況である。</p>

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度行事予定について説明。

学校教育専門監より

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について説明。

丹羽委員	<p>中学校はこれから急激に学力が上がっていくのではないかと。今までの話からそうあってほしいと思う。</p> <p>自己肯定感が高まっている。地域の方が愛情を持って子どもに接することが、自己肯定感につながる。自分が良いことをすると褒められ、自分も相手も嬉しい気持ちになる。</p>
------	--

小 山 委 員	家庭学習時間の項目。中学校が低い。部活が忙しいのか、スマートフォンなどが原因か？時間の使い方が上手になっているはずなのに。
小野寺専門監	実際に中学校の先生方に聞いてみたいと思うが、時間の使い方、自分自身のコントロールが大事。ゲームなどの誘惑に引っ張られているのかと感じる。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和5年9月22日（金）午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後2時40分

令和5年9月22日

署名委員

署名委員